



『人生100年時代の年金・イデコ・NISA戦略』

田村 正之 (著)

[出版社] 日本経済新聞出版

[発売日] 2021/12/16

[単行本] 336ページ

[価格] 1,870円 (税込)

[ISBN-13] 978-4532358952

[推薦人] 近森 拓充

DCプランナー 1級・社会保険労務士 労働組合職員

年金力養成講座みんなのねんきん パートナー社会保険労務士

iDeCo+普及推進研究会 会員

2022年4月の年金制度改正（在職高齢年金の見直し、在職定時改定の導入、繰下げ可能年齢の拡大、DC制度改正など）を控え、今年の3月末から4月にかけては、テレビなどの情報番組でも年金制度が多く取り上げられました。FPや年金専門家などいろいろな方が説明されていましたが、なかでも具体的に説明をされていてわかりやすかったのが、今回ご紹介する田村正之氏であったと思います。

本書は、2018年に刊行された「人生100年時代の年金戦略」（日本経済新聞出版）の改訂版にあたり、その後が生じた老後2,000万円必要論や2019年の財政検証結果、2020年5月成立の年金制度改正法を踏まえ、公的年金やiDeCoなどの私的年金についての改正事項を解説し、その上でこうした制度をフル活用すべく書かれたものです。本書の帯裏にも「2022年からの公的・私的年金の大改革。有効活用で安心な老後を作り出す！」とあります。

本書の前半は公的年金に関する事項を取り扱っており、第1章では総論として上記の制度改正についての解説が書かれています。続く第2章では年金制度に関する基本事項について取り上げており、年金制度が保険であることから始まり、年金財政について誤解の多い点を指摘、解説しています。それを踏まえて第3章では公的年金制度をフル活用することを紹介しており、

繰下げ制度の活用だけでなく、遺族・障害年金の給付やフリーランスなどの第1号被保険者のケースにも目を配っています。

後半は資産運用についての解説をおこなっており、第4章ではまず資産運用の基本である長期運用について説明しています。そして、第5章では特に税制面での優遇がなされているDC制度について、第6章ではNISAについても取り上げています。

このように、本書は2018年刊行の前著に直近の改正内容を加え、最新の内容にアップデートされたものとなっています。前著ではどちらかという公的年金についての解説にウエイトを置いていましたが、本書は前著刊行以降の制度改正はもちろん、iDeCo、NISAの制度についても相当ページを割いています。

私が今回本書を推薦する理由は、著者が具体的に数字を示して解説している点です。年金は制度が複雑であるため、年金はもらえないとか、年金は破綻するという誤った議論も見られますが、これに対しても丁寧に説明をしています。また、例えば繰下げは65歳受給と比べて何年で総受給額を上回るかということ、改正となった選択可能な受給開始年齢の引き上げや繰上げの減額率変更を踏まえ、その改定率の考え方に触れつつ、長生きするのであれば、加給年金が受け取れなくても老齢

基礎年金・老齢厚生年金の両方を繰下げ請求する方が有利であることなどを紹介しています。そして、DC制度においても改正を経て75歳まで受け取りを伸ばすことで、最長で95歳まで運用が可能となることや、加入可能期間の延長で資産の非課税枠も拡大すること、今後の改正で企業型DCとの併用が容易になることからiDeCoの上積みで資産がより増えていく点なども、図表を用いてわかりやすく示されているため、非常に参考になります。

本書において著者は、DCを「老後に備える最強の投資優遇税制」と位置付けており、DCについて制度面だけでなく、加入時、掛金拠出時、運用時、受取時のそれぞれの場面でどう活用するとより効果的か、またそれぞれの場面での注意点についても言及しています。本書に出てくるこのような事例の解説などは、DCプランナーの私たちにとって実務面の観点からも、相手に説明する際に大変有益なものと思われるます。

著者は、全体を通して『「今回の改正を最大限に活用し、自分のスタイルに合わせて柔軟に」が成功の鍵である』と述べており、もちろん、制度改正に対しての留意点についても言及しています。極めて実践的で改正の内容もカバーしていることから、幅広い方にお薦めしたい1冊です。